

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直しに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

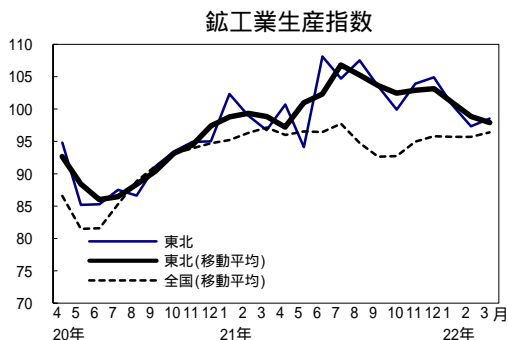
前回からの主要変更点

	前回(令和4年3月)	今回(令和4年6月)	
景況判断	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる	
個人消費	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

1 - 3月期の鉱工業生産は、生産用機械は金型等が減少したこと等により、前期比 4.0%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	15.3	8.4	1.2	9.1	9.1	7.8
食料品	11.0	1.6	0.7	5.5	2.1	1.6
化学・石油製品	9.1	1.6	9.2	3.8	4.4	21.5
輸送機械	7.9	0.9	12.0	30.3	2.3	10.7
生産用機械	6.7	11.2	13.1	19.4	10.0	39.2
鉱工業	100.0	2.2	4.0	4.1	3.3	1.2

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1 - 3月期、3月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

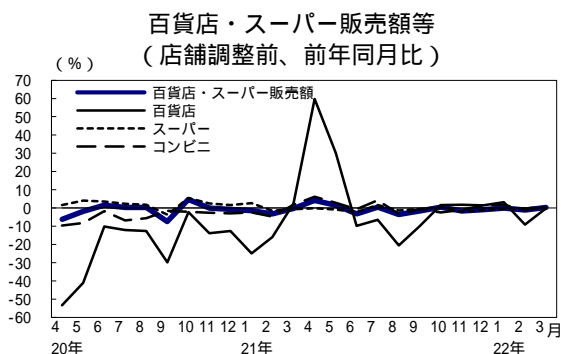
1 - 3月期は前期比0.2%増となった。月別にみると、1月は前月比0.1%減、2月は同1.0%減、3月は同1.4%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比0.3%減となった。月別にみると、1月は前年同月比0.1%減、2月は同1.2%減、3月は同0.2%増となった。

百貨店は、1 - 3月期は前年同期比1.9%減となった。

スーパーは、1 - 3月期は同0.1%減となった。



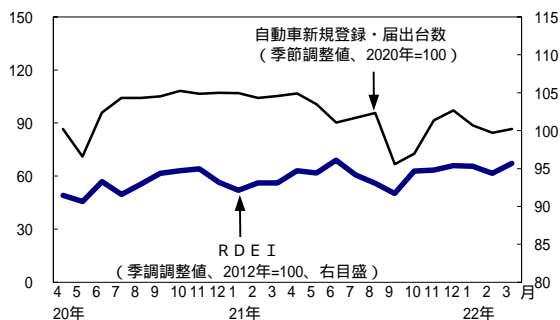
	2022年1-3月	2022年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.2	0.1	1.0	1.4
百貨店・スーパー(*2)	0.3	0.1	1.2	0.2
百貨店(*2)	1.9	3.1	9.1	0.2
スーパー(*2)	0.1	0.5	0.2	0.3
コンビニ(*2)	0.3	1.7	1.2	0.3
乗用車(*3)	18.1	17.4	19.2	17.8
(季節調整値)(*3)	0.5	8.7	4.7	2.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

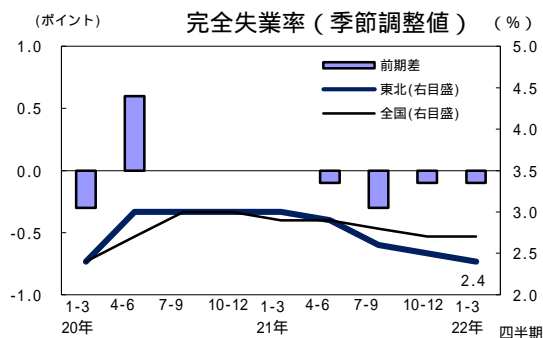
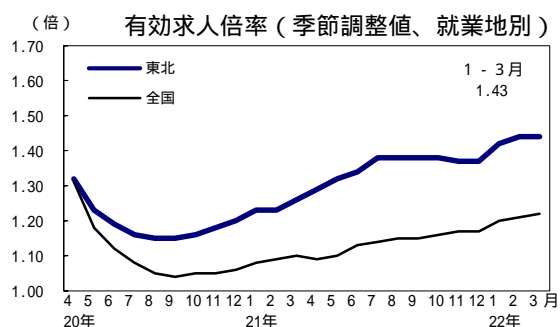
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和4年4月調査) 景気判断理由の概要

2. 東北

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・食品はコストプッシュ値上げの影響で、平均1品単価が前年よりやや上がっている。そのためか買上点数の前年比の減少幅がやや拡大している。しかし、来客数は横ばいなので、消費の落ち込みはまだ現れず、全体として変わっていない(スーパー)。
			・半導体不足の影響で新車の納期がかなり延びてきており、新車の購入を諦める人が増えてきている(乗用車販売店)。
			・新型コロナウイルス新規感染者数が一定数で下げ止まっている状況にもかかわらず、県民割はゴールデンウィークに向けて大きな伸びを示しており、ゴールデンウィーク期間に絞れば7割以上も戻っている。世界情勢は不安定で物価上昇も続いているが、国内宿泊マーケットは底を脱した印象が強い(旅行代理店)。
	企業 動向 関連		・相変わらず商品の納期が見通せない状況が続いているものが多々あり、状況は変わらない(コピーサービス業)。
			・出荷数量の減少に加え、原材料や燃料の値上げが続いており、経営的に非常に厳しい(窯業・土石製品製造業)。
雇用 関連		・各社新年度を迎え、予算取りで動いていた案件が正式発注となり、受注増加となってきている(輸送用機械器具製造業)。	
その他の特徴 コメント			・人手不足を背景に従業員を募集する動きは継続している。また、その確保のために正社員を募集する動きも継続している(その他雇用の動向を把握できる者)。 ・人材を求める相談が増えている(民間職業紹介機関)。
			：前年まで余りみられなかった旅行用途の需要や、県外客からの需要がみられるようになってきている(衣料品専門店)。 ：農業資材価格や燃料価格の高騰で、コスト増となっている(農林水産業)。
先行き	家計 動向 関連		・大きな変化はないとみるが、この先、国内外の様々な環境変化が予測され、物価高によるモノ消費の減少と、新規感染者数の減少などによるコト消費の増加が顕著になり、百貨店の来客数にはマイナスにはたらくことが懸念される(百貨店)。
			・材料供給に時間を要し、照明器具すら納期が不明である。受注できても完成時期及び引渡価格の確定が難しく、資金の回転が遅い(住宅販売会社)。
	企業 動向 関連		・客の話から増産の雰囲気はあるものの、ウクライナ情勢や円安の問題で先行きは不透明である(金属製品製造業)。
			・コスト高の状況は当面続くものと見込まれる。また、新型コロナウイルス第7波の到来で経済が止まることはないと思うが、各業種とも少なからず影響を受けてしまうのは確実とみている(金融業)。
	雇用 関連		・円安や原料高の影響が、製造業を中心に採用予定数や採用要件の引上げなどに影響する可能性がある(人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント			：今年は祭りも通常どおり開催される方向で動いている。観光関係の人の移動が本格化すれば、飲食店や小売店の売上に直結するため、売上の伸びが期待できる(コンビニ)。 ：新型コロナウイルスの感染状況による。当地域での新規感染者数は高止まりが続いているので、それが収まらないと新型コロナウイルス発生前の状況には戻らない(一般レストラン)。

(D I) 現状・先行き判断D I (東北)の推移(季節調整値)

